

## 東海村の公共交通を考える

# いつもの暮らしの“あし”を守るためには

本村の公共交通は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により利用者数が減少傾向にありましたが、徐々に例年並みに戻ってきています。このことから、公共交通による移動が皆さんの生活の中で大いに活用されていると考えられます。しかし公共交通は、これから先も安定した利用者数を確保できなければ存続することが難しくなってしまいます。村の公共交通の現状と新たな取り組みから、今後の公共交通の在り方について、改めて考えていきたいと思います。

【問い合わせ】企画経営課企画調整担当(☎282-1711 内線1337)

# 村の代表的な2つの公共交通

## 東

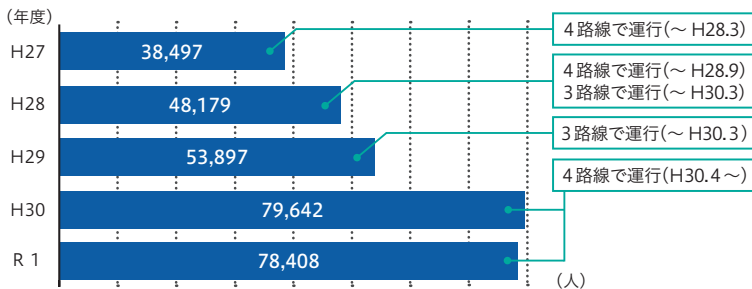
海村は面積38平方キロメートルの中に駅を中心とした市街地が形成され、鉄道や路線バス、デマンドタクシーなど複数の公共交通機関が利用できます。本村の代表的な2つの公共交通は「路線バス」と、「デマンドタクシー」「あいのりくん」です。今は「車があるから大丈夫」と思っている人も、10年後、20年後…と考えたときに、公共交通は、どのような存在であるべきでしょうか。

### 村内や近隣のまちを結ぶ「路線バス」

路線バスは、地域公共交通の在り方について検討を重ねた結果、東海駅東口から出る「茨城東病院線」「海浜公園西口線」「フロースタ須和間・南台・緑ヶ丘循環線」「笠松運動公園循環線」の4路線が整備され、いずれも民間の交通事業者が運行しています。これらは、村内の主な公共施設や病院など生活に必要な場所への移動手段となる一方、阿漕ヶ浦公園や大神宮、村松山虚空蔵堂、国営ひたち海浜公園など、イベント地や観光地へ行く手段としても活躍しています。

これからも、適宜ダイヤ改正やルートの見直し等、利用者の利便性を向上する取り組みを行います。そして、更なる利用者層の拡大のため、しっかりと地域や交通事業者との連携を図っていきます。

路線バス 年度別利用実績と運行本数



▲路線バスの利用実績を見ると、運行から4年間は毎年上昇しています。昨年度は、若干マイナスとなりましたが、年間で約8万人の足となっています。

### 路線バス—トピックス

#### 「ひたち圏域Maasプロジェクト」の実証実験がスタート!

Maas(MaaS: Mobility as a Service)について国土交通省は、「地域住民や旅行者一人ひとりのトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせることで検索・予約・決

もっと知りたい!

## デマンドタクシー あいのりくん



### 【概要】

対象 ▼村内在住の方

運行日 ▼月～土曜日(祝日、年末年始を除く)

運行時間 ▼午前8時～午後5時(土曜日は午後4時まで) ※運行間隔は30分です。

運行範囲 ▼村内

利用料金 ▼300円/回(身体・知的・精神障がい者、要介護認定者、6歳未満は100円/回)

運行台数 ▼▽月～金曜日…6台 ▽土曜日…4台 ※1台は車いすに対応しています。

### 【利用までの流れ】

#### 1. 登録手続きをする

次のいずれかの場所で、登録手続きを行ってください。

▽福祉総務課・高齢福祉課(役場行政棟1階)

▽企画経営課(役場行政棟3階)

▽東海村社会福祉協議会(総合福祉センター「絆」内)

▽なごみ・総合支援センター

#### 2. 事前に電話等で予約する

予約は2営業日前(車いすをご利用の方は1週間前)から利用時間の30分前まで受け付けています。

#### 3. 利用する

自宅や指定場所(村内)へ迎えに行き、希望する目的地(村内)まで送ります。

デマンドタクシーは「ドア to ドア」で村内を移動できる乗り合いタクシーで、路線バスとともに、重要な移動手段として多くの方に利用されています。平成18年から運行を開始し、住民ニーズに対応して、利用時間の拡大や運行台数の増加などを行ってきました。

### 村が運行するデマンドタクシー「あいのりくん」

現在、国の推進事業として日立市を中心とした「ひたち圏域Massプロジェクト」が実施され、本村も実証実験の対象となっています。※詳細は、12ページをご覧ください。

済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの」と定義付けています。

## これから先を見据えた 公共交通の在り方を考えませんか

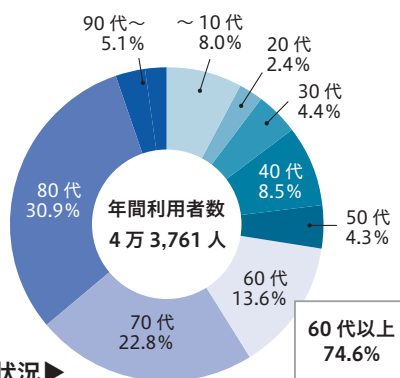
村内在住の方のみが利用の対象であるため、目的地としては「スーパー」「病院」など、生活に直結した場所への利用が多い傾向にあります。

### デマンドタクシー「あいのりくん」のトピックス

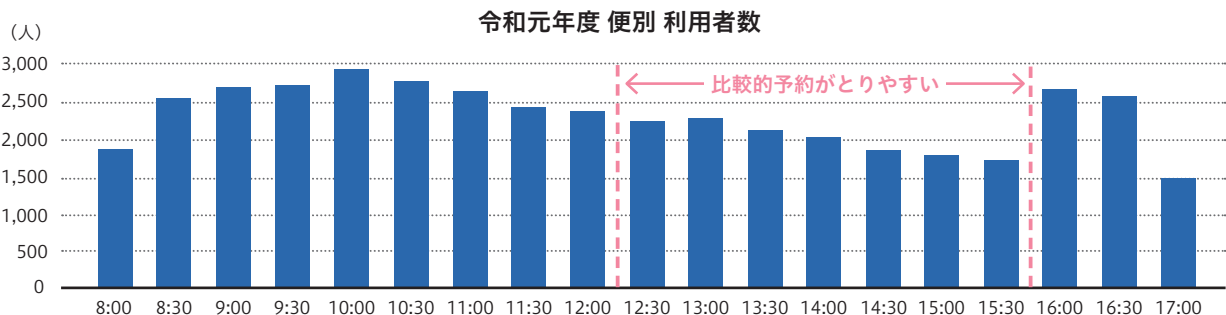
デマンドタクシー「あいのりくん」には、予約が取りやすい便があった!

デマンドタクシー「あいのりくん」は、午前8時30分から正午までの便と、午後4時の便の利用者数が多い傾向にあります。

このため、それ以外の時間帯は、比較的スムーズに予約を取ることができます。



令和元年度 年間利用者数および年代別利用状況▶



▲デマンドタクシーの利用者数はここ数年、横ばいです。しかし、60代以上の方の利用割合は年々増加傾向にあり、全体の7割を超えています。このことは、デマンドタクシーが高齢者にとっていかに、重要な交通手段かが見てとれます。一方で、急なキャンセルが増加し、適切に運行できていないという課題もあります。

# MaaSプロジェクト

## 人の移動が変わる…交通手段の未来像

**あ** の場所に行ってみよう。あなたはそう思ったときに、どのように行く手段を選択していますか。

### MaaS(マース)という考え

「MaaS(マース)」とは「Mobility as a Service」の頭文字を取ったものです。直訳すると「サービスとしての移動」という意味になります。

これは、バスや電車、タクシーはもちろん、ライドシェアやシェアサ

▼国土交通省ホームページより



イクルを含むあらゆる移動手段を、ICT(情報通信技術)を用いて連携させることで、人々が公共交通を効率よく、また便利に使えるようになることです。ヨーロッパでは本格的に研究が進められ、日本においても、地域が抱えるさまざまな課題の解決策として注目されています。

### 私たちの生活はどう変わる？

例えば、ショッピングモールに行くとき、私たちはアプリ等を使って自宅からその場所までの最適な経路や利用できる交通機関、所要時間、料金などを簡単に調べることができます。MaaSでは、この検索機能に加えて交通機関の予約や支払いも、スマホなどの端末を使い、まとめて行うことができるようになります。

「移動」を「サービス」として捉え、さまざまな交通手段から、その人に

合った最適な手段を提供することで、公共交通の新たな優位性を見出すことができます。

### ひたち圏域MaaSプロジェクト

このプロジェクトは、国が主導する「スマートモビリティチャレンジ」の実証地域、および「日本版MaaS推進・支援事業」に選定されており、「地域版MaaS」のモデルケース構築を目指して取り組まれています。

この取り組みの一環として、専用アプリ「Hitachi MaaS」が公開されました。乗換検索やチケットの購入など、便利な機能が搭載されていますので、ぜひ一度利用してみたいかがでしょうか。

MaaSプロジェクトの大切な要素は、交通手段の選択肢の多さです。私たちの生活の中で必要な選択肢とは何か…。まずは、皆さんの身近な移動の場面から考えてみませんか。



東海村内を運行している路線バスもお得に利用できます！

## 「ひたち圏域MaaSプロジェクト」の実証実験がスタート

「ひたち圏域MaaSプロジェクト」の取り組みとして、高萩市、日立市、東海村、ひたちなか市の4市村を対象とした、実証実験がスタートしました。

村では、スマホ専用アプリから路線バスの乗車切符を買くと、1日600円で村内のバスが乗り放題になったり、片道運賃が10パーセント割引で購入できるサービスが受けられたりします。この機会に、自分だけの移動ルートを探して、村内を散策してみませんか。

実施期間

3月31日(水)まで

※詳細は、ひたち圏域新モビリティ協議会事務局(茨城交通株式会社日立オフィス運輸部内 ☎0294-32-7380)へお問い合わせになるか、ホームページ(右QRコードよりアクセス可)をご覧ください。

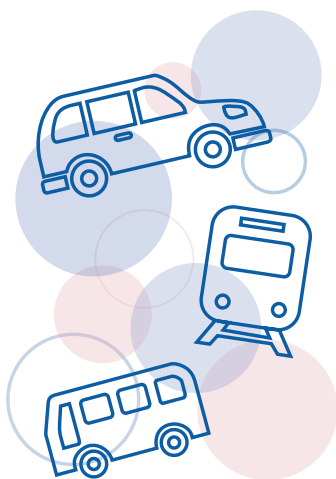




共に考え 共に悩み 共に創り上げよう

# 「いつもの暮らしの“あし”を考える」

## ワークショップを開催しませんか？



いつもの暮らしや地域活動を見つめ直すきっかけとして、  
「いつもの暮らしの“あし”」について語り合しましょう！

皆さんは日常生活の中で、自家用車以外の移動手段を意識して考えたことはありますか。

人口減少、少子高齢化が本格化する中、日常生活の移動手段を確保することは、まちづくりにおいて、ますます重要なテーマとなりますが、その全てを公共交通だけでカバーすることは難しい課題でもあります。

鉄道や路線バス、デマンドタクシーに代表される公共交通に加え、今後は、カーシェアやライドシェア等の新たな移動スタイルや自転車の活用、移動販売に代表されるモノをヒトのもとに移動させるサービスなど、あらゆる資源の中から自分たちの地域に合った組み合わせを選択していく必要があります。

限られた資源・財源の中で、最大限の効果を得るためには、住民の皆さんと知恵を出し合い、しっかりと考えることが必要であり、最終的には「地域での助け合い」「人々の強い絆」が最も重要となります。

### 開催モデル

所用時間：約2時間程度 ※時間短縮など、柔軟に対応します。

1. 講演「これまでの取り組みと今後の戦略」(30分程度)  
企画経営課より概要を説明します
2. 質疑応答・意見交換(15分程度)  
公共交通に関する疑問やご意見を伺います
3. ワークショップ「いつもの暮らしの“あし”を考える」(75分程度)  
小グループに分かれて、意見を出し合います

自治会全体でも、部会でも、  
サークルでも、希望があれば  
どこにでもお邪魔して  
お話しします！

### 申し込み・問い合わせ

〈興味のある方は、お気軽にご連絡ください〉

企画経営課プロジェクト推進担当(☎282-1711 内線1335) ✉kikaku@vill.tokai.ibaraki.jp